

風しんの流行に対する和歌山県の対策について

流行の状況

- ・和歌山県では、風しんの患者数が急増しており、流行の拡大が懸念される。
昨年1年間に比べ急増 本年59名(5月16日) ← 昨年10名
過去に接種機会の少なかった20歳代から40歳代が流行の中心

課題

- ・妊婦が感染することにより、子どもに先天性風しん症候群の発生が危惧される。
- ・妊婦とその子どもを守るため、子育て支援の一環として、対策の実施が急務

対策

- ・風しんワクチン接種緊急助成事業を5月21日から実施
5月21日(火)に公表を予定
6月補正予算成立後、遡及して適用を予定 提案予定額 約9億円
(妊娠を希望する女性約17万人+妊婦の夫約1万人=18万人×5千円)

- ・風しんワクチンの接種を幅広く県民へ啓発
- ・国に対し緊急要望を実施(5月16日)
定期予防接種等の対策と、地方公共団体が実施する対策への支援を要望